

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



4.5 **特集** 第15回生涯学習推進研究協議会参加報告

- 2 **トピックス** 市町村合併問題調査検討委員会活動の総括
- 3 **視点** 公民館との関係プレー
- 3 **ひろば** 唸りたくもなる社会教育の重さ
- 6 **実践記録シリーズ** 子どもの活動を支援するネットワークづくり
- 7 **サークル交流** 生きがづくり (新井市むくげサークル) / 大地に響け橋太鼓 (与板町橋太鼓城山鼓友会)
- 7 **素顔拝見** 宮村磨衣さん (新発田市) / 高松光志さん (聖籠町)



第8回「越後湯沢全国
童画展」審査会
湯沢町



市町村合併問題調査検討委員会活動の総括

委員長 渡邊 徳 廣

1. はじめに

市町村合併が全国的に進められている中、公民館に津波といえる大波が押し寄せている変革期において、公民館の果たす役割・機能・存在意義等を再認識し、今後の公民館の人的・物的・財政的体制が十分確立されるよう平成15年5月に検討委員会を立ち上げ、活動として、合併後の公民館の在り方及び方向付けを行っている地域についての学習、市町村合併に関わる緊急提言、県外先進地の視察等を行った。

2. 公民館を取り巻く状況

平成の大合併が市町村合併ありきで、社会教育、公民館について十分調整がなされない内に、より広域的な行財政の確立を図るため自治体運営の改革、地方分権が進められている。そんな中、公民館のコミュニティセンター化、民間委託、職員・予算の削減等大きな改革が進められており、公民館の存在意義が問われている。

私達は地域住民や多くの公民館と連携し、公民館が地域づくり、人づくりに果たしてきた実績や、生涯学習の中核施設として地域住民の自立に役立つ社会教育施設であることを強く主張していくことが肝要である。

3. 公民館の役割、地域に培ってきたもの

公民館は、子どもから大人までだれもが利用できる社会教育の立場で、地域住民の生涯学習の中核施設として、地域住民が(1)集う場(人が集まり、仲間づくりをする場)(2)学び、創造する場(住民の自己実現の場)(3)地域住民の暮らしや生活に関する地域課題を発見し、問題を皆で解決する力をつける場(4)他の施設や機関と地域住民との結び目であり、地域住民と共に考え、共に歩み、地域づくり、人づくりに大きく貢献してきた。

公民館がコミュニティセンターと違う点は、住民の自主的・自発的な学習の場を保障し、住民の学習を地域に生かし、一部分の人や首長の善し悪しに大きな影響を受けず、継続した地域コミュニティが

確立できることである。地道な活動で地域に根ざしていることである。

4. これからの公民館がめざすべき方向

新潟県公民館連合会では、平成15年7月の県大会で(1)公民館施設の確保・充実(2)専任職員の必置(3)予算の確保について緊急アピールを採択し、県内の首長、議会議長、合併協議会長に要望活動を行ったが、住み良い、活力ある地域づくり、人づくりのため、公民館として次のことを進める必要がある。

- (1) 個人的な学習(趣味・けい古・レクリエーションを楽しむ)から、社会的学習(生活課題や地域の課題の発掘・解決)への転換
- (2) 学習成果の地域や社会への還元システム化
- (3) 学習で得た知識・技術・技能を個人の満足だけに終わらせず、地域や社会に還元した地域づくり、人づくりに役立てる
- (4) 大学、NPO、ボランティア等地域の各種機

関・団体との連携を密にし、多様な学習機会の提供、場の拡大を図る

- (4) 公民館職員は、研修等で資質を高めると共に意識改革を図る
- (5) 新しいまちづくりに向け、地域をどう活性化するか、それに沿った社会教育的視点の事業・講座をどうやるのかの公民館運営基本のビジョンの確立
- (6) 事業の自己点検、自己評価の実施

公民館は、事業(学び)をとおして地域住民を結び地域づくりを進めていく場であり、事業の実施のみが目的ではない。公民館事業についての説明責任を果たす。事業の改善に役立てる

5. おわりに

合併後の公民館の在り方については、今はいろいろ試行錯誤、模索の段階であり、100の公民館があれば100の特性、個性ある公民館がある。地域住民から期待され、必要とされる公民館であるには、「住民自治」と「地域連帯」がどれだけしっかりしているか、公民館が地域の良さを生かし、夢を持った、個性ある「協働によるまちづくり(地域振興)」にどう関わっていくのかにかかっている。

公民館がコミュニティセンターと違う点は、住民の自主的・自発的な学習の場を保障し、住民の学習を地域に生かし、一部分の人や首長の善し悪しに大きな影響を受けず、継続した地域コミュニティが

BOOKS INFORMATION

『市町村合併問題への対応』

A4判 80ページ 500円(送料実費)

新潟県公民館連合会
市町村合併問題調査検討委員会

公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共 1,800円

申込先 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

公民館との 関係プレー

前 長岡市立太田小・中学校
校長 板垣 和伸



太田小・中学校は、蓬平温泉を校区にし、全校児童二十二名、生徒十八名の小中併設校です。一昨年の十二月から翌年の一月にかけて行った中学生の短歌セミナーについて紹介します。

セミナーでは、地域の文芸愛好者を講師にお願いしました。講師の選考や依頼に当たっては、太田地区の公民館長さんにご尽力いただきました。実際の活動では、まず短歌の面白さや楽しさ、短歌づくりの体験、作歌のポイントについて、講師から生徒たちに

語りていただきます。後日、国語の時間に、生徒たちが、講師のお話を参考に短歌を作ります。一週間ほど後、実作した短歌一首一首について、講師から講評、添作指導を受けます。生徒たちの短歌は、公民館発行の文芸誌にも掲載していただきました。

平成十五年度は、この活動を俳句にも広げました。九月には、文芸愛好者たちと一緒に合評会も行っています。

このように、教育活動の充実に向け、太田公民館にずいぶん助けられています。

H O T N E W S

掲 示 板

月刊公民館 第4回編集委員会の概要

- 日時 平成16年3月17日(水)
- 会場 全国公民館連合会事務局会議室
- 内容
 - 既刊号「月刊公民館」の評価、ふり返りについて
 - 大変読み易い内容となり、親近感も出て来た。
 - 書き手と読み手の距離が近づき、読者層に拡がりが見られる。
 - 読者の反応が即記事化され、反応がすばらしく良くなった。
 - 理念、論考等の内容にはらつきが見られる。
 - 平成16年度7月号以降の特集テーマについて
 - 7月号 地域を挙げての子どもの育成
 - 8月号 続民間委託及び指定管理者制度
 - 9月号 公民館事業の評価
 - 10月号 高齢者の学習と世代間交流
 - 11月号 地域づくり、まちづくりと公民館
 - 12月号 外国人から見た公民館

ひろば

唸りたくもなる

社会教育の重さ

塩沢町社会教育委員 木村 義隆

数年前に、育成ボランティア「ゆきぐに応援団」を立ち上げて、演劇公演、キッズ・ドラマスクール、読み聞かせ等の活動を行っています。ボランティア活動は子どもたちが来なくなれば終わってしまうので、日々無我夢中、必死に取り組んで来ました。

にとつて社会教育は、考えれば考えるほどあまりにも大きすぎて、気が重くなっています。

それなのに、今、頭の中では昨夏の社会教育主事講習会に参加したお陰？で、学社融合・登校拒否・校内暴力・学校適応過剰・家庭適応過剰・子育ては本能ではない・ジエンダーなる言葉が錯綜しています。私

「うーん」と唸って家を出る。
たぶん明日も……。



協議会(公民館全国セミナー)参加報告

期日 平成16年2月25日(水)～27日(金)

公民館全国セミナーに参加して(2)

上越市公民館

係員 松澤 博紀



私からは、2日目午後に行なわれた分科会とパネルディスカッション、3日目の特別講演について報告します。

●分科会

パネルディスカッション

分科会は全部で6分科会に分かれて行なわれ、それぞれテーマにそった実践事例の発表を通して話し合いが進められました。

私は第3分科会「地域で育てる子ども事業①」に参加し、そこでは次のような内容が話し合われました。

- ・ 講座の「成果」の考え方が多様化してきている。ただ人が多く集まれば良いということではない。どの層を対象にし、どれくらいの成果を得るのかを考えて講座を実施することが大切。
- ・ 子ども対象事業は、プログラムの組み方



によっては周りの大人だけが苦勞し、子どもを「お客様」にしてしまう場合がある。子どもも大人と共に苦勞を体験するようなプログラムが望ましい。

また、その後行なわれたパネルディスカッションでは、各分科会のコーディネーターが「新しい公民館をめざして」という基本テーマにそって担当分科会を総括し、「まちづくり・地域振興とのかかわり」「市民の手による自主的な講座・学びの組織化」「公民館のコーディネーター機能」「受益者負担をどう考えるか、またどこまでするか」等、今公民館が置かれている現状と課題について話されました。

●特別講演

「相手に伝える話し方」

3日目の特別講演では、NHK「週刊子どもニュース」でもご活躍の池上彰氏が上記演題で話をされました。池上氏は、10年間番組を通じて子どもと接してきた経験談や苦勞話を交えながら、「子どもだけに限らず、相手に何かを伝える時には相手の『分からない』を大切に、思いやりを持って説明することが必要。相手から断片的な知識を聞き出して、それをつなげるように説明をすれば相手は理解できる」と話されました。

様々な人と接する機会が多い私も、コミュニケーションの大切さと難しさは日頃から感じていますが、この池上氏の言葉から、ただ一方的でなく相手を思いやって会話をすることの大切さを学びました。

今回、3日間があつという間に過ぎた研修でしたが、まだまだ公民館職員として学ぶべき点が多い私にとっては得るものがとても多く、自分が1年間行なってきた事業を見直し、また新たな気持ちで事業に臨む大変良い機会となりました。このような機会を与您いただきありがとうございました。

特集

第15回生涯学習推進研究

会場 東京 (独)国立オリンピック記念青少年総合センター

公民館全国セミナーに参加して(1)

新潟市東地区公民館
前館長 浅野 雅生



公民館全国セミナーに出席させていただき、ありがとうございました。2月25日から27日の3日間、東京で開催され、1日目は、基調講演が2つありました。最初に、文部科学省の折原社会教育課長から、「生涯学習時代における社会教育の新たな動向」ということで講演がありました。

まず、文科省が改築のため引っ越したことや、株式会社まで委託可能になった指定管理者制度について、公民館として聖域にならない、との動きについて話がありました。

月刊公民館2月号にも登載していると前置し、話された本題の話を私なりの理解で紹介してみます。

(1) 生涯学習での公民館の役割

生涯学習のひとつの分野である社会教育を実施するほかに、他分野での人々の学習活動を支援する役割もあります。公民館自身による講座開催、自主グループ育成、施設提供など、地域の状況に合わせてさまざまなレベルでの取り組みが行われています。

(2) 公民館での社会教育の役割

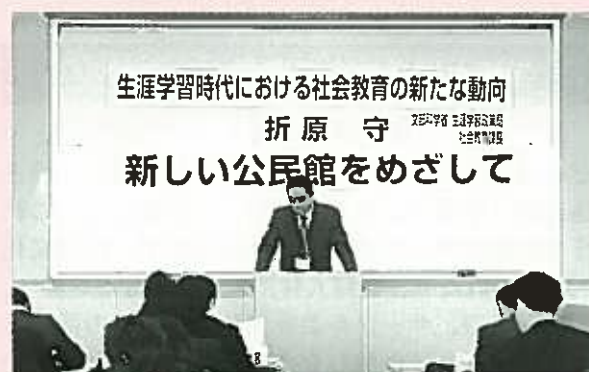
カルチャーセンターやコミセンとの違いが問題になっていますが、公民館は本来、地域づくり、人づくりの社会教育の場です。今地方分権のなかで、“行政と住民の協働による地域づくり”が重要なテーマになっていて、これを担う健全な自立した住民づくりがこれからの公民館の社会教育の役割です。時の政治に踊らされない、行政にとって都合のいいだけの住民ではない、自分で考えてゆく住民を育てる。そのためには、首長部局から独立した教育委員会に属している必要があります。

(3) 講座のプログラムをどう組むか

次の基調講演で、広島大学の小池教授から、それでは今公民館でどんな事業が、どんなプログラムづくりが求められているのかという話がありました。

だめなプログラムは、人集めタイプで、話が上手な講師をただ並べたものだ(生涯学習機会提供型)。いいプログラムは人づくりをしっかりとねらったもの、受講者の意識や行動の変容をしっかりとねらいにもったものだ(社会教育型)。

ねらいが、抽象的なものや、学習内容を記述しただけのものが多く、それではだめだ。ねらいを大事にしなければならない、と我々には手厳しい内容の話でした。



(4) 公民館、首長部局移管の動き

事例報告で、公民館を首長部局に移し、コミセンにする動きの報告がありました。地方分権が進んできて、首長部局での地域づくりの取り組みが進んでくると、首長部局では経験のある専門のスタッフがいませんし、また、予算が厳しい上、人員増もできませんので、公民館がおいしい大きなターゲットになってくるのではないのでしょうか。

(5) これからの公民館～首長部局との連携

規制緩和、地方分権のなかで、首長部局の事業は、福祉を始め、基本的、構造的な見直しが行われています。そのような住民に直結した社会変化を主体的に受け止める住民作りを、公民館は首長部局と一線画しながらも、積極的に連携していかなければなりません。そのためのプログラムづくりがこれからの公民館の課題になるのでは、というのが今回のセミナーでの私の感想です。

実践記録

73

シリーズ

子どもの活動を支援するネットワークづくり ～横越町子どもセンターの取組から～

前横越町教育委員会 派遣社会教育主事 佐久間栄基

1 子どもセンター

横越町では、地域で子どもを育てる支援体制づくりとして「中央子どもセンター（H13.6.6）」「ボランティアセンター（H14.5.1）」が設置され、情報・企画・人材の3つの要素を融合させたコーディネーターやボランティアスタッフを配置し、行政・ボランティア連携型の支援体制で情報発信交流体験、人材登録、学社連携等の様々な事業を展開している。さらに地域住民主導型の「地域子どもセンター（9地区）」を開設し、各地区の実態に応じて教育資源、地域人材、既存の施設等を活用しながら、週末等の時間帯に異年齢交流や子どもの自発的活動を促している。

2 学校と地域社会の連携

今年度は、これらの取組をもとに、小学校と子どもセンターが連携し、PTAや地域住民を巻き込んだ「学習フェスティバル」を開催した。これまでの展示中心の文化祭にとらわれず、町の文化芸能にふれたり、登録人材、地域子どもセンター、公民館講座、サークル芸能団体等の日頃の活動を子どもとともに体験しながら、大人にとっても発表の場として開拓されたことは、生涯学習の充実、振興の立場から考えても大きな成果といえる。



学習フェスティバル（水墨画）

3 “脱”大人主導（地域住民の参画と子どもの参画）

子どもを支援する体制づくりを進める過程で、大人が子どもの遊びをお膳立てし、お客様扱いする活動になってきている。“脱”大人主導を図り、子どもが企画段階から参画できる機会をつくりたい。今年度は「横越町ジュニアスタッフ」活動をととして、中学校の地域生徒集会の機能を実際の地域活動と結びつけ、中学生と大人がじっくり話し合える場を意図的に学校や各地区で設定した。「大人との話し合いは苦手だったが、話しているとだんだんアイデアが出てきてやれそうな気になる。」など、子どもが地域活動に入り込んだことで自分たちが住む地域を意識するようになった。



地域ジュニアスタッフ合同会議

4 ねがい

大人は、地域全体で子どもの支援活動に取り組んだ実践から、子どもの動きが見え、他人任せでなく、関心を持って子どもとかわることの大切さが分かった。また、学校を「地域の学校」として巻き込んでいったことで、子ども支援の意図するところがより明確になり、学校、地域社会、行政が単なる支援者の関係ではなく、パートナーとしての意識が生まれつつある。私たちは、この活動をととして子どもたちが「学校での学び、家庭の温かさ、地域のふれあいの大切さ」を感じ、次の世代を担う子どもたちのために何ができるかを考え、取り組む“大人”になってもらいたいと念じている。

生きがさ(ん)vs
むくげサークル

私達、パッチワーク手芸教室は昨年10月に10周年を迎えました。春は笹岡子やお菓子、おせちづくりと手芸に偏らず、みんな一人一人がその日一日講師となり得意な分野を勤めます。作品づくりの後のお茶飲みタイムも、色々な知識を広げるよい時間です。

昨年10月「まちおこし」は中町のイベントに参加し、「のぼり」で小物を作り、展示販売や、イベントの色づけをしました。



また、1月27日雪の中、東京ドームでの「世界キルト展」に全員で出掛け、沢山の作品に感動を覚え、これからの作品づくりの糧となることと思います。中高年のこれからの生きがいづくりと仲間づくり、月2回が待ち遠しい日々です。

（新井市・むくげサークル
代表 浅野 裕子 記）



大地に響け 橋太鼓
与板町橋太鼓城山鼓友会

24年前、和太鼓ブームに乗り、和太鼓集団を結成したのが今日に至っております。

当初、太鼓も曲もなく、全く手探りで資金や曲作りに奔走しましたが、町内の方々と



様々な人に支えられ、与板町の太鼓として位置づけられるようになりました。

公民館行事や、町内外のイベントによく声がか、るようになり、各地に赴いて演奏しております。

現在総勢25名、内小学生が半数を占め、大人と子ども混成チームが、イベントに合わせたスタイルで演奏しております。

太鼓を通して、人間的にも成長してくれる、そんな期待をこめて毎週集っては楽しく活動しております。

（橋太鼓城山鼓友会
会長 小林 修 記）

高松君は3年前、私と一緒に社会教育課に配属されました。

社会教育係で主に青少年教育を担当する彼は、生来の生まじめさと、過剰な明るさで、小さい子ども達からは「ゴリさん」「ピカ志！」などの愛称で親しまれ、成人式実行委員会で知り合った青年たちからは、事あるごとに「飲みに行こう！」とたかられ、持ち前のキャラを活かしながら、毎日仕事をしています。

ゴルフ、囲碁、筋トレ、ラ-

聖籠町教育委員会社会教育課
主任 高松光志さん



メンの食べ歩きなど実に多趣味で、お酒の方も「嗜む」なんてものじゃないほどたくさんお召し上がりになる高松君、そんな彼に最近変化が訪れました。

めっきり品行方正になった彼を訪問したところ、なんとこの5月に結婚が決まったとのこと。

知り合ってから半年余りのスピード結婚だそう、何はともあれ、愛すべき高松君に「幸あれ」と祈る今日この頃です。

（聖籠町教育委員会社会教育課 渡辺佳津志 記）

昨年の春、新採用で新発田市の職員となり中央公民館に新鮮で爽やかな風を運んでくれた宮村さん、スラリとしたモデルのような長身で、まだ十代というなんとも初々しい彼女は、誰にも負けない若さとエネルギーに満ちあふれ、毎日明るい笑顔を絶やさずに仕事をしています。

そんな彼女が好きな言葉は、「一生感動」。これは書家で詩人



新発田市中央公民館
主事 宮村磨衣さん

の相田みつをの「一生感動一生青春」からの言葉です。何かに感動し、一生をかけて燃焼することは、社会教育や生涯学習の理想かもしれません。宮村さんの公民館業務においても、今後遭遇するどんなさやかなことにでも感動できる心を、生涯いくつになっても大事にしてください。

宮村さんは期待の星です！がんばってね☆
（新発田市中央公民館 主事 岩村直子 記）

素顔
拝見

昭和58年に設置されて以来20周年の節目を迎え、大形・木戸の分館を含めた利用団体で実行委員会を発足させ、記念式典、祝賀会の開催と併せ、この記念誌を企画し、刊行する運びとなったそうです。

内容は、○刊行のあいさつ、○東地区公民館のあゆみ、○定期利用団体一覧表、○サークル紹介、○文化祭よもやま話とから構成されておりま



本誌の特色は、何といたってもサークル紹介で、各グループ・サークルともその存在を

恵贈資料紹介

東地区公民館20周年記念誌

新潟市東地区公民館

アピールするため各種各様の趣向を凝らした内容を登載しております。手書きあり、マンガチックな描写あり、ワープロ、パソコン技法を駆使したものであり、楽しく読めます。

子育て支援、通船川クリーンアップ事業等で、文科大臣表彰の栄に浴した実績ある公民館の姿が存在しております。

Net work ネットワーク

平成16年度 新潟県高齢者大学入学案内

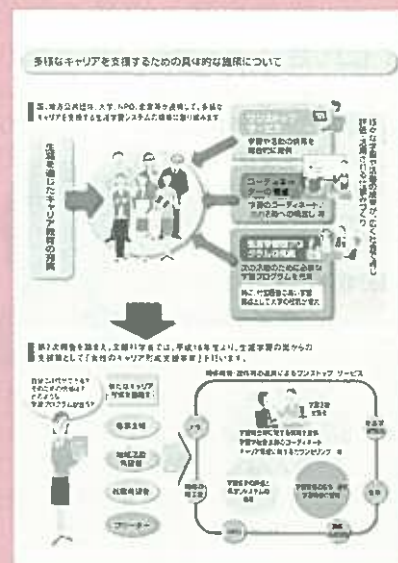
平成16年度
新潟県高齢者大学
入学案内

教養講座
福祉ボランティア講座
パソコン講座

財団法人新潟県長寿社会振興財団

event information

多様なキャリアが社会を変える



あ と が き

4・5面と8面の紙面構成を4月号から一部改訂いたしました。「きつ」「みにくい」との要望がありましたので、変更してみました。

市町村合併問題は、いよいよ本番です。調査検討委員会も一部委員を入れ替え、六月から再始動の予定です。

年度始め、人事異動等であわただし日々かと存じますが、一日でも早く平常の業務に戻られんことを祈念しております。

(鈴木 記)

表紙解説 第8回「越後湯沢全国童画展」審査会

当町では、日本童画の父 川上四郎の偉業を顕彰し、毎年「越後湯沢全国童画展」を開催しています。この写真は、入賞・入選作品を3名の審査員が審査し、入賞・入選作品68点を多くの人が鑑賞して載っている光景です。

発行所 **新潟県公民館連合会** 発行人/会長 佐藤信幸 編集人/事務局長 鈴木友夫 Eメール/ni-koren@juno.ocn.ne.jp

〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 TEL・FAX (025) 224-6073

印刷/第一印刷所 〒950-8724 新潟市和合町2-4-18 TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776 【定価1部150円 年共1,800円】